

「浙江大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学経営管理教育部修士1年 武久 美優

① 学習成果

私は今回、このプログラムを通じて初めて中国へ訪問した。現地で最も苦労したのは、言語面での問題である。現地では日本語はもちろん、英語もなかなか通じることがなく、私は拙い中国語で必死にコミュニケーションを取った。多くの場面でなかなか伝わらず、自分から会話を諦めてしまうこともしばしばだった。しかしそんな中で気づいたのは、『「分かりません。」と会話を切り上げてしまうことは、伝える苦労を避ける楽な方法であるが、そこでコミュニケーションの全てを一方向的に途絶えさせてしまうものである』ということだった。コミュニケーションというのは、相手に伝えようとする気持ちと、相手を理解しようとする気持ちをお互いが持ち合わせてこそ初めて成り立つ。基本的な事柄ではあるが、共通言語というインターフェースを持たない中でコミュニケーションを経験したことで、このことを改めて認識させられた。すなわち、共通の言語が話せないことは会話を行う上で大きな障害となるが、コミュニケーションを可能にする前提は、言語ではなく気持ちの部分にあるのだと再認識した経験であった。

しかしながら、自分のことを伝えたり、相手のことを深く理解したりするうえで、やはり共通言語でのコミュニケーションは必要不可欠となってくるだろう。今回、中国語を学ぶ機会が多くあり、文化と共に少しの文法・会話表現を身に着けることが出来た。この経験と学びを活かし、私は今後も中国語の学習を続けたい。英語と中国語が話せるようになれば、身の回りの多くの人々と共通言語でコミュニケーションが出来る。異なる背景を持つ人々との多くの交流を通じて、今後も様々な国や文化、歴史、価値観について多くを知り、知見を拡げていきたいと考えた。

② 海外での経験

今回現地での滞在中、私たちは主に3つの行動を取っていた。

1. 言語の授業

平日の午前中はそれぞれのクラスに分かれ、中国語の授業を受講した。口語・リスニング・総合など、クラスによりいくつかの科目に分かれ、毎日複数の中国語科目を学んだ。

2. 現地学生との交流

平日の午後の時間を使い、現地の学生との交流授業に参加した。農学部へ訪問して発表を行ったり、日本語学科の生徒と共にディスカッションを行ったりして交流を深めた。

3. 自由行動

プログラムのない平日午後や、休日の時間を使い、各自が現地を自由に散策した。近くの湖や植物園などに行ったほか、蘇州や上海へも足を運んだ。(多くは現地学生同行のもと)

③ プログラム内容

上記②で記述した通り、毎日大学で中国語の授業を受けながら、適宜他の学生との交流プログラムに参加するということなのであった。

④ 進路への影響について

私は将来、企業のマーケティング部門に勤め、ゆくゆくは経営企画といった全社的な活動にも携わりたいと考えている。今回中国に滞在してみて、建造物の形といった分かりやすいところから、コミュニケーションのやり方などの目に見え

ない部分まで、日本との差異を多く実感した。企業が海外展開を行い、グローバル競争力を付けてゆくためには、このような地域ごとの違いをしっかりと認識して現地での活動を行ってゆくことが必要であると考え。確定的な志望というわけではないが、このような海外マーケティングにも興味を持つようになった。

⑤ その他

我从三月六日到三月二〇日在浙江大学国际教育学院参加言和文化课程了。

汉语很难。对日本人来说汉语的发音很困难。

但是学中国的语言以及文化很快乐了。

我希望有一天可以跟朋友用中文交流。我继续学习和练习。

这个经验非常宝贵了。